

石神第二小学校便り

令和2年度 第8号(10月号)

文責：石神第二小学校長 林 典行

〇〇の秋 〇〇の自分

いよいよ秋本番となりました。まさにスポーツの秋、芸術の秋、読書の秋、様々な活動や体験に適した季節です。

学校でも、特設陸上部の子どもたちが汗を流しながら精一杯練習に励んでいます。特設吹奏楽部ではアンサンブルコンテストの開催が決定されたことを受け、演奏中の眼差しが一層鋭くなってきました。算数チャレンジクラブの子どもたちはまさしく難問に黙々とチャレンジしています。そして、現在、全校生が学習発表会に向け、心をひとつにして劇や音楽の練習に取り組んでいる様子が随所で見られます。何か目標を持って頑張っているときの子どもたち一人ひとりの姿からは、きらきらとした輝きを感じ取ることができます。

さて、日本の子どもは世界の子どもと比較し「自己肯定感」が低いという統計結果が発表されています。それは何が原因なのでしょう。これは私見ですが、「〇〇の自分」をしっかりと見出していない子どもが多いからではないでしょうか。

「絵を描くのが好きな自分。」「走るのが得意な自分。」「サッカー選手になりたい自分。」「友だちのことをよく思いやることができる自分。」「相手と比較してできない自分を見つけるのではなく、～が好きな、～が得意な、～になりたい自分をたくさん気づかせるようにすることが大切なのではと考えます。

全校集会では、イチローに憧れる野球少年と、その父親のやりとりを描いたCMの内容を借用して、子どもたちにこの思いを伝えました。「なろうと思ってなれるようなもんじゃないよ。でも、なろうと思わなきゃ、何にもなれないよ。」



盛況でした【ミニ運動会】



9月29日(火)は4・5・6年生の、9月30日(水)は1・2・3年生の「ミニ運動会」を好天のもとで開催することができました。通常通りとはいきませんでした。どの子どもたちも精一杯の力を発揮していました。特に、ダンスでは、上学年・下学年とも見ている人の心に響くような演技をしようとする心意気がひしひしと伝わってきました。

上学年の開・閉会式は、事前練習等一切行わず、子どもたちが主体的

に進行しました。4・5年生から6年生へのお礼のことばや、6年生からのエールはすべて子どもたちのアドリブです。下学年でも、普段ならお兄さん・お姉さんが担当する係の仕事をてきぱきとこなす姿が見られました。手をかけずとも子どもたちだけで十分できる、子どもの力を信じることの大切さを改めて実感した次第です。

平日の開催となりましたが、多くの皆様にご参観いただき、温かいご声援を頂戴しましたこと感謝申し上げます。

